

## アメリカの活力

西 島 和 彦 (物理)

先日アメリカ中西部へ行った時のことである。シカゴの空港で乗継便を待っていると、アメリカ人の夫妻が、東洋人の赤坊を床に敷いた毛布の上で遊ばせていた。そのうちに赤坊は寝てしまった。夫妻は隣に坐っていた老人と話を始めた。聞くとはなしに聞いていると、この二人は韓国へ行ってこの赤坊を養子にしてきたとのことであった。二人は本当に嬉しそうな顔をしていた。アメリカ人が外国人の子供を養子にすることは、しばしば見聞することなので、このことは間もなく忘れてしまった。

ついでミシガン大学へ行った時に、古い友人の家へ招待された。彼には二人の娘がいるが、二人とも大学に入り親の手許から離れてしまったので、今度はニカラグアからの男の子を養子としたとのことで早速その子を連れてきた。彼は初めはスペイン語しか話せなかったが、今では英語を自由に話すとのこと、色々と聞いてみると彼は8才で3年生とのこと。そして学校は好きだが、また嫌なこともあると言っていた。

こうして続けざまに、アメリカ人が非白人を養子としているのを見ると考えさせられた。アメリカには実に様々な考え方の人々が居る。勿論アメリカは人種的偏見の強さでも有数の国である。今NHKのテレビでやっている「山河燃ゆ」は日系米人が人種的偏見の故に迫害を受けた話を扱っているし、また南部におけるKKKの活動も良く知られている。しかしながら他方において、あたかもその償いをしているかのような人々もいるのである。このようなことが出来るのはキリスト教精

神のためかとも思ったが、必ずしもそうではない。ちなみに私の友人はユダヤ系である。

このように一見して外国人とわかる子供を養子にするというようなことは、日本ではとても考えられない。アメリカと日本の社会の違いをこのような自由度に関して比べるならば、正に気体と結晶の違いぐらいあろう。そして寛大な方のアメリカ人は、とても日本人には考えられないくらい寛大である。

4月に台湾の清華大学を訪れた。この大学は、もともとアメリカ政府の出した基金により発足している。しかもその基金は、義和団事件に関係して清国政府がアメリカ政府に支払った賠償金から出ている。アメリカ政府はこのお金を中国人青年の教育のために使うようにと清国政府に託したのであった。初め、清華大学は教養課程のみの学校として出発し、後期の専門課程はアメリカの大学で受けるようなシステムになっていた。その後、後期の課程も清華大学で受けられるようになったが、多くの中国人学生をアメリカの大学へ送り出す基金を持っていた。パリティ非保存でノーベル物理学賞を受賞したコロンビア大学の李政道教授もその恩恵を受けた一人であったことを初めて知った。清華大学の教授のリストを貰った。その成立の歴史から明らかであるが、日本の大学で教育を受けた教授の数は誠に微々たるものであった。恐らく5%程度であろう。勿論アメリカ政府が清華大学のためにしたようなことを日本の政府に期待することは、金持が天国に行くよりも難しいことである。

アメリカの活力は、多くの人々が全く自由な発想を持ち、自由に実行出来るという点に存する。また人々の考え方はバラエティに富んでいる。

いま日本人の学生とアメリカの学生とを10人ずつ選び、10題の問題を解かせたらどういう結果になるかについて思考実験をしてみよう。日本人学生は10人とも、1番から8番まで完全に解いたが、9番と10番は誰も解けなかった。アメリカ人の学生はどうなったか？ 1番はA君しか解けなかった。2番はB君しか解けなかった。……9番はI君しか解けなかった。10番はJ君しか解けなかった。こうして日米比較をすると、平均点は確かに日本の方が高い。しかしアメリカにはどんな問題でも必ず解ける人がいる。従って時間が経てばすべての人が、すべての問題の解答を知るようになる。

それに反して日本では、初めから大部分の問題の解答をすべての人が知っている。しかし皆が同じ考え方をするので解けないものは何時まで経っても誰にも解けない。そして最後はアメリカから習うことになる。

日本人は平均的知力において優れているが、アメリカ人は発想の多様性において、すなわち知的エントロピーにおいて優れていると言えるであろう。最近問題になっている共通一次試験においても、せめて複数の正解を与えて、どれを選んでも良いようにするぐらいのことはしたいものである。出来る人が多勢いても、全員が同じ考え方をするのならば、大部分の人は何も新しいことが出来ないことになる。